

【 参考資料 単元指導計画の例 】

() 年 UNIT / LESSON () “ _____ ” [全 時間]

単元の指導目標

【単元で扱う題材】	中心となる言語活動 指導事項及び具体的な活動		【単元で扱う言語材料】
	言語の使用場面		
	言語の働き		

時	ねらい	課題及び具体的な学習活動・生み出したい英語表現等	言語材料	重点を置く評価規準・評価方法	個に応じる手立て
1					
2		「ねらい」、「課題」、「言語活動」、「評価規準」に整合性があるかどうかに留意する。			評価規準の設定は、「評定のための評価規準」が目的ではなく、『ねらいを明確にした指導のため』であるとともに、『生徒一人一人にきめ細かな指導を行うため』のものである。従って形式的な評価規準の設定になってはいけない。
3		用紙サイズ、項目のとり方、各欄の大きさはもちろん、単元指導計画の様式そのものについても各学校ごとに設定し、活用しやすいものにする。			評価規準の設定に際しては、「単元や単位時間のねらい」、「単元や単位時間の課題」、「言語活動」との一貫性が図られているかどうかを十分検討しなければならない。
4		作成することが目的ではなく、あくまで、指導の見通しを持つことや、作成した指導計画を活用し生徒の姿の向上にどう結びつけるかが大切である。したがって、授業実践時にはこの単元指導計画が手元にあり、常に朱で訂正を加えるようにしていきたい。			「単元における評価規準」と「単位時間における評価規準」の整合性に留意することが必要。
5					単位時間における評価規準は2～3が適切。あまりに多くの規準を設定しても、結局生徒の姿を見届けることができずに終わってしまう。具体性のある評価規準や評価方法を明確にしたい。
6		この単元指導計画では単位時間間のつながりが見えにくいので、資料のような単元の指導構想を明確にすることも大切にしたい。			単位時間の中心となる評価規準については「個に応ずるための手立て」を具体的に考えたい。
7					

【 単元における評価規準 】			
コミュニケーションに対する関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化に関する知識・理解
『単元の指導目標』に対応した評価規準を設定すること。			